

春季特別展

浮世絵 美人と 馬

2023年

4月22日(土)

6月11日(日)

※会期中展示替えがあります

【前期】4月22日(土)～5月7日(日)

【中期】5月10日(水)～5月21日(日)

【後期】5月27日(土)～6月11日(日)

開館時間 | 10:00～16:30(入館は16:00まで)

休館日 | 月曜日、5月9日(火)、
23日(火)～26日(金)

入館料 | 大人 200円
小中高生 30円
(毎週土曜日は小中高生無料)

主催 | 公益財団法人 馬事文化財団

協力 | 株式会社 高橋工房

馬の博物館

EQUINE MUSEUM OF JAPAN

上図：歌川国貞(三代歌川豊国)「十二月ノ内 孟春 蹄始」(部分)
嘉永7年(1854) 東京都立中央図書館特別文庫室所蔵

右図：菊川英山「当世絵兄弟 三田稲荷之額」(部分)
文化4年(1807) 馬の博物館所蔵



春季特別展

浮世絵 美人と馬



- ① 菊川英山「当世吾妻下り」(部分)
文化年間(1804~18)頃 馬の博物館所蔵
- ② 鳥居清長「風流三つの駒 馬貝」
天明4年(1784)頃 学校法人城西大学水田美術館所蔵
- ③ 楊洲周延「春駒のあそび」
明治26年(1893) 馬の博物館所蔵
- ④ 歌川房種「蚕養草」
慶応元年(1865) シルク博物館所蔵
- ⑤ 歌川貞貞(三代歌川豊国)「風流十二月ノ内 衣更着」
天保年間(1830~44)頃 公文教育研究会所蔵
- ⑥ 「巴御前」
江戸時代(18世紀) 東京国立博物館所蔵
Image: TNM Image Archives
- ⑦ 歌川芳員「神奈川権現山外国人遊覧」
文久元年(1861) 馬の博物館所蔵
- ⑧ 歌川貞貞(三代歌川豊国)・歌川広重「雙筆五十三次 濱松」
安政元年(1854) 東京都立中央図書館特別文庫室所蔵

会期中のイベント

- ギャラリートーク** 4月29日(土)、5月20日(土)、6月3日(土) 14:00~
本展の見どころを担当学芸員が解説します。
当日先着15名、事前申込不要。当日の入館券が必要です。
- 江戸木版画 摺りの実演** 5月13日(土) 11:30~12:40頃 / 14:00~15:10頃
事前申込制。詳細は馬の博物館HPをご覧ください。
協力:株式会社 高橋工房

馬の博物館 EQUINE MUSEUM OF JAPAN

〒231-0853 横浜市中区根岸台1-3 根岸競馬記念公苑
TEL 045-662-7581
URL <https://www.bajibunka.jrao.ne.jp/uma/>

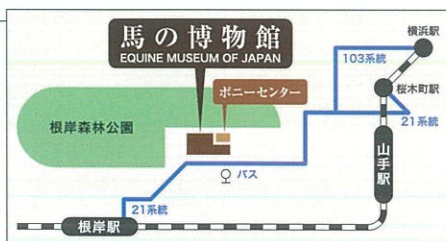


新型コロナウイルス感染症拡大防止対策を実施中です。詳しくは、馬の博物館HPをご覧ください。

アクセス

横浜市営バス「滝の上」下車すぐ

- JR根岸駅 2番バスのりばから
21系統・桜木町駅前行
- JR桜木町駅 6番バスのりばから
21系統・市電保存館前行
- JR横浜駅東口 7番バスのりばから
103系統・根岸台/本牧車庫前/
根岸駅前行



江戸時代には大衆文化として花開いた浮世絵には、女性を描いた作品がたくさんあり、女性たちの表情や仕草、ファッションは人々を魅了しました。また、浮世絵のあらゆる画題に馬は描かれており、馬が当時の生活に欠かせない身近で大切なパートナーであったことが見て取れます。

江戸時代には馬と人とのかわりに根ざした風習や文化が多様にあり、浮世絵では女性たちが日々の暮らしの中でそれらに親しむ様子が捉えられました。また、文学作品中の馬と女性が登場する有名なエピソードも、浮世絵の画題となりました。一方、男性を

美人に置き換えるなどした見立絵は高い人気があり、絵の中でこそ楽しめる馬と女性のかかりが見られます。明治時代に入ると、最先端の流行を身にまとった女性と共に、馬は文明開化を象徴する存在として浮世絵に登場しました。このように、浮世絵師たちの手によって馬と女性のかかりは美しく洗練されたイメージとなり、広く親しまれたのです。

本展では、江戸から明治時代にかけての浮世絵約130点を中心に展示し、馬と女性のかかりを様々な角度から紹介します。浮世絵に生き生きと描かれた馬と女性たちの姿をぜひお楽しみください。